

日本岩石鋳物特殊技術研究会 第49回総会・研究討論会を開催して

技術センター 理学部等部門
石佐古 早実

1. はじめに

日本岩石鋳物特殊技術研究会は、全国の各国立大学法人等で、主に地球科学とその関連領域の研究試料の製作・調製に関与する技術者によって組織されている。本研究会では、技術者相互の技術開発と知識の向上に努めることを目的として、1年に一度各所属機関の持ち回りで総会・研究討論会を開催し、試料を製作する上での技術研究発表・討論・情報交換等を行っている。

我々技術者が製作を依頼される試料は色々な性質や特徴を備え、また、広範な研究分野からの様々な要望に対応するため製作方法もそれぞれに合致したものであることが求められる。これら要望に沿った試料を製作するためには本人の努力も勿論必要ではあるが、研究会を通じて得られる専門技術者相互の知識や情報は極めて有益なものとなる。これにより自身が一層のスキルアップを図ることができ、多方面への技術の提供が可能となる。

今回、本学において第49回総会・研究討論会を開催したので報告する。

2. 期間・場所

平成18年9月27日・28日

広島大学大学院理学研究科 大会議室

3. 参加者

大学、鋳山系および地質調査系企業

23名（内、広島大学 3名）

4. 開催内容

1日目：講演，総会

2日目：研究討論会

（研究発表，総合討論，企画討論（課題研究））



図. 日高洋 教授による挨拶

5. まとめと感想

近年，“西暦2007年問題”として取り上げられているように、本研究会も退職者が増加傾向にあり、今後の活動等に少なからず影響が出ることは必至である。その状況下、総会で話し合われたなかに、どのようにしてこれまで培ってきた技術を後継者に伝えるかが大きな問題として挙がった。当面の対策として、これまでの技術発表や報告等をまとめて冊子にする方向で調整することとなり、完成すれば貴重な財産となる。

また、今回の研究討論会では、研究発表に加え、新企画として企画討論（課題研究）を行った。新企画は、各技術者が同一の試料（3点）を製作し、製作した試料および製作方法や用いた機械・器具・消耗品等をレポートに記載したものを持ち寄り、製作についての発表、さらに、製作された試料を顕微鏡で観察し、仕上がりの状態や製作方法について具体的な意見交換を行い、技術や知識の向上を図ることを目的としている。結果として、各人の製作した試料の完成度には相違が見られ、併せて、これらについての研究発表により適切な製作手法を学ぶことができた。今後もこのような企画を継続し、

技術の研鑽・伝承に努めていきたい。

さいごに、開催にあたり、本学理学研究科長
清水洋 教授，同研究科地球惑星システム学
専攻長 日高洋 教授，同専攻 狩野彰宏 助
教授，早坂康隆 助手にはご挨拶，ご講演いた

だき大変お世話になりました。また，準備等に
あたってご助力いただいた技術センター理学部
等部門の柴田恭宏 技術職員をはじめ，同部門
の皆さま，ならびに理学研究科地球惑星システ
ム学の学生諸氏には大変お世話になりました。